

申5号交渉前後の開催

第二十八回国労東日本電気職場交流会を五月二十九日～三十日に、神奈川県・湯河原万葉荘において開催してきました。準備を進めてきた神奈川県電協は二年前よりの計画、会場手配を中心に苦労しながらも交流会の成功に向け、努力をしていただきました。



今回の参加者は組合員が年々減少している状況においても、東日本本部役員を含めて、全地方の東日本

電気職場から六十七名が参加しました。

初日の全体集会は、岸副議長の司会で開会して、まず地元神奈川県地区本部部長瀬委員より挨拶をいただき、戦争法案で鉄道労働者が協力させられた過去の事故を紹介し、廃止の取り組みに力を入れていること、自分が勤めている委託駅の問題点が報告され、時間があつたら観光もしてもらいたいと語られました。続いて神奈川県電協の佐々木議長からは、早くから準備を進めてきたが、会場の都合で分散

会や夜の交流会の日程について、不便をかけてしまうこともありますが、最後まで交流会の成功に向け、地区電協の参加者が努力していきたいと挨拶しました。

東日本本部からは佐藤書記長、樋口執行委員が出席し、佐藤書記長から①国労の組織拡大の取り組みとして新採対策とG会社を含めた加入状況と特徴点について②重大な輸送障害が多発し、安



全安定輸送がゆらいでいる。そうした中で、労働協約改訂にむけた交渉の強化、特に女性部・青年部の交渉に注視し、また、大会までに追加の要求を整理したい、職協の要求についてもその中で出してもらいたい③JESSを含めた関連会社の組織拡大と交渉強化について報告がされました。

高橋議長より、今交流会の意義と課題が提起され、その中で、川崎構内列車衝突脱線事故以降、連続して起きた、重大な輸送障害を起こしている現状、三大労災も発生して

いる問題、「メンテナンスの再構築」施策の失敗といえる、世代交代と技術低下が原因。昨年9月に提出した申5号が基本要求、強電関係が交渉を終了し、弱電関係は近いうちに開催されるという状況の中で、今交流会が開催されている。今までと違う形で各分科が討論を深めて、確認や意思統一をしてもらいたい、また、昨年9月に組織拡大交流会を開催したが、今交流会への若い人の参加が少なかった。組織拡大についても分科会で討議してほしいという提起を行ってきました。



その後、分科毎に別れての交流に入っていきます。分科会は、信号、通信、電車線、配電、変電、に別れ、それぞれの職場交流を行ってきました。

夜の交流は、例年通りの内容ではありますが、各地方が持ち寄った「おいしいお酒」も、年々それぞれ地元感を強調するのに苦慮している姿が紹介の中で見て取れますが、これも電気職場交流会の伝統でもあり、時間いっぱいまで宴会場で盛り上がりを見せていました。また、その後も各部屋において分科会ごとの交流に熱が入っていました。

危機感をもって声を上げよう

二日目の分科会は会場の都合で全体会議室を

使った関係で、九時から一時間半ほどになった各分科会では、地方からの現状と意見が出されてきました。各分科会とも短い時間になってしま



ました。その点十分な議論ができず、各分科長に苦勞をかけたと思いますが、ま

その後二日目の全体集

時間の関係で各分科会の報告は交渉を終えた電車線分科と、これから交渉に臨む信号分科のみの報告を受けました。また、初めて交流会に参加した神奈川の飯田さんからは自分だけではなく、多くの若い人の参加を望むし、自分も努力していきたいという感想と決意が述べられました。

二日間の議論を通しての高橋議長の集約では、①申5号の共通要求、及び強電関係の交渉を終えて、時間の制約もあり、議論を省略した項目もある。「二重安全措置」や監督員指定の変更、設備管理の不備等は、再度問題点を整理して要求化していきたい②安全問題では、連続して発生している重大な輸送障害に対して、本社の危機感や本気度が感じられない、相変わらず、ルールだけを増やしている。一方で現場には短期間の緊急点検を指示している。国労が声を上げていく必要があ



る③弱電関係の交渉は終わっていないが、年内にもう一度要求を整理していく④組織拡大については、来年の交流会には多くの若い人が参加できるように各地方で努力をお願いしたい。と締め括りました。

組織拡大して、来年結集しよう

次回第二九

回東日本電気職場交流会の準備を行う高崎地電協議長の岸さんから、若い人の参加を希望することや交流会の継続していく意義に対して、決意を



もって取り組みたいのでお互い頑張ってください。という力強い決意も出され、全体集会の最後に高橋議長の団結カンパニーで二日間の交流会を閉会しました。

申5号弱電関係の交渉日程が6月17日の13時30分からに決定しました。関係者のご協力をお願いします。